可視化情報学会全国講演会(新潟2005)の開催にあたって

可視化情報学会会長

水野 明哲

Message from the President of VSJ on the Occasion of Niigata 2005 Convention

Akisato Mizuno

可視化情報学会全国講演会「新潟2005」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

可視化情報学会の講演会は32年前に始まった「流れの可視化シンポジウム」に起源を発しています。その後、法人化を果たして、学会は着実な歩みを進めてまいりました。現在では、7月に東京で「可視化情報シンポジウム」を開催し、秋に東京を離れて「全国講演会」を開催しています。本年の全国講演会は新潟の「朱鷺メッセ国際会議場」において開催の運びとなりました。今回は131件もの講演発表が予定されており、全国講演会がこのような盛大に行われることはこの上もない喜びであります。

新潟の町は信濃川によって分断されており、その行き来は万代橋に頼ることで慢性的な混雑が発生していました。河口にトンネルを作る計画が持ち上がり、運輸省(当時)が港湾事業の一環として建設することになったときに、技術委員会のメンバーとなり、計画段階から完成するまで幾度となく新潟を訪れ、工事の進展を拝見してきました。いま「新潟みなとトンネル」として立派に完成しているのを見て、当時を振り返っています。立派な換気塔が町のモニュメントになっています。

新潟といえば、昨年10月の新潟中越地震がまだ記憶に新しいところです。山古志村に代表されるように、甚大な被害が発生したことは、まことに痛ましく、被害に遭われた方々にはお慰めの言葉もありません。復興には大変な努力と時間を要することと思いますが、着々とその努力が続けられていることに敬意を表するものです。力強い回復を願うばかりです。

特別講演として、新潟の歴史に関する講演と越乃寒梅に関する講演が準備されているようで興味が尽きないお話が伺えるのではないかと楽しみにしています。ぜひたくさんの方に聞いていただければと願っております。

最後になりますが、この全国講演会「新潟2005」を企画・開催されるにあたり、一方ならぬご尽力をいただきました藤澤延行実行委員長(新潟大学教授)をはじめとする幹事、実行委員およびご協力いただいた関係者各位に厚くお礼申し上げます。